

# 令和 6 年度事業活動報告書

令和 7 年 9 月

産業看護研究センター

## 目 次

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| はじめに .....                               | 1  |
| I. 活動報告 .....                            | 2  |
| II. 成果報告 .....                           | 4  |
| 《自主研究》                                   |    |
| ・治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策の妥当性の検討  |    |
| ・A 市内の健康経営取得に影響する要因分析                    |    |
| ・中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との連携実践経験に関する質的研究の発展 |    |
| ・障害をかかえた労働者への産業看護職による健康支援に関する文献検討        |    |
| ・高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討              |    |
| III. 参考資料 .....                          | 18 |

はじめに

令和6年度は、働く人々の健康支援において重要な転換期となりました。高齢労働者の増加やメンタルヘルス不調の顕在化、企業における健康経営の推進など、産業保健の現場では多様な課題が浮き彫りになりました。特に小規模事業場では、産業保健活動の実施率が低く、また産業看護職の「一人配置」や非正規雇用の割合が高いことや開業保健師の活躍など産業看護職の働き方も徐々に明らかになってきました。

こうした社会的背景を踏まえ、四日市看護医療大学産業看護研究センターには、今後も地域に根ざした実践知の蓄積と発信を重視し、シンクタンク機能を果たしていく大きな役割があると考えます。

令和6年度は、新たな自主研修を加え5つの研究活動が実施されました。「治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策の妥当性の検討」「A市内の健康経営取得に影響する要因分析」「中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との連携実践経験に関する質的研究の発展」「障害をかかえた労働者への産業看護職による健康支援に関する文献検討」「高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討」をそれぞれの委員が責任をもって遂行しています。

情報発信機能の強化として、ホームページの内容を随時更新し、産業看護研究センターの活動を可視化しました。これにより、センターの取り組みや成果を広く社会に伝える有効な情報発信手段として機能したと考えています。令和6年度には、自主研究の成果を第13回日本産業看護学会学術集会にて発表し、優秀演題賞を受賞する栄誉を得ました。また、四日市看護医療大学紀要への掲載も実現し、研究成果の学術的発信を果たすことができました。産業看護研究センターが、産業看護に関する研究を通じて産業保健の目的を具体的に実現することに寄与したと考えます。

さらに、地域連携機能として、四日市商工会議所と共催の公開講座、出前講座、三重産業看護研究会の活動支援も継続的に実施しています。

三重県内における産業看護職の実践と研究活動を継続的に支援することで、産業看護の質的向上とさらなる発展に貢献してまいりたいと考えております。今後とも、産業看護研究センターの活動に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年9月吉日

産業看護研究センター センター長 後藤 由紀

## I. 活動報告

### 自主研究

---

- ・治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策の妥当性の検討
- ・A市内の健康経営取得に影響する要因分析
- ・中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との連携実践経験に関する質的研究の発展
- ・障害をかかえた労働者への産業看護職による健康支援に関する文献検討
- ・高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討

### 地域連携

---

#### ・出前講座

- ・大宗建設 安全衛生大会「従業員一人一人ができる健康づくり」

講師:後藤由紀(四日市看護医療大学産業看護研究センター センター長)

日時:令和6年6月25日(火)

場所:四日市市民ホール

- ・女性の健康セミナー「骨粗鬆症について理解を深めよう」

講師:大谷喜美江・榎本喜彦(四日市看護医療大学産業看護研究センター研究員)

日時:令和7年3月5日(水) 9:00-10:30

場所:松阪市内企業

#### ・公開講座(四日市商工会議所共催)

- ・企業活動に役立つ講演会「社内コミュニケーションに役立つアンガーマネジメント」

講師:後藤由紀(四日市看護医療大学産業看護研究センター センター長)

日時:令和7年3月27日(木) 14:00-16:00

場所:四日市商工会議所

・三重産業看護研究会の開催支援

・第61回「自己紹介を兼ねた参加者交流会」

日時:令和6年6月7日(金) 18:30 - 20:00

場所:四日市看護医療大学

・第62回「これでいいのかな・・・?不安な対応から、自分も相手もいきいき輝くメンタルコミュニケーション」

講師:渋谷佳子(メンタルトレーナー、元保育士)

日時:令和6年10月12日(土) 13:20 - 15:30

場所:四日市看護医療大学

・第63回「情報交換会・懇親会」

日時:令和7年3月12日(水) 18:30 - 20:00

場所:四日市市内飲食店

---

情報発信

- ・ホームページ <https://www.y-nm.ac.jp/yrro/rcohn/index.html>
- ・日本産業看護学会会誌論文投稿
- ・四日市看護医療大学紀要投稿

## Ⅱ．成果報告

### 《自主研究》

## 仕事と治療の両立支援における産業看護職と 臨床看護職との連携方策の妥当性の検討

主任研究者：河野啓子

分担研究者：杉崎一美 後藤由紀 一尾麻美 畑中純子 加藤睦美  
武澤千尋 大森美保 澤木美貴

自主研究報告：治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策の妥当性の検討

#### 1. 研究体制

主任研究者を河野啓子、分担研究者を杉崎一美、後藤由紀、一尾麻美、畑中純子、加藤睦美、武澤千尋、大森美保、澤木美貴が務めた。

#### 2. これまでの研究経過

労働者の高齢化とともに、疾病の治療を受けながら就労している労働者が増えている。これらの人々への看護の質を上げるためには、産業看護職と臨床看護職との連携が必要と考える。しかしながら、両者の連携に関する文献は数が少なく、まして連携方策については私たちの知る限り、ほとんどみられない。そこで、どうしたら両者の連携が進むのか検討したいと考えた。2018年度には臨床看護職を対象に、2019年度には産業看護職を対象に、両者の連携についての考え方・実践について調査し、これらの実態を基に、2020年度と2021年度には関連の文献レビューを行い、両者の連携の仕組みづくりについて検討し、方策案を作成した。2022年度にはこれらをさらに発展させるために、研究メンバーでブレインストーミングを行い、質的研究を実施して「産業看護職と臨床看護職との連携の仕組みづくりの方策案」を固めた。2023年度にはこれらの方策案の妥当性を検証するための研究を行い、一定の成果を得た。

#### 3. 2024年度の研究

2024年度はこれまでの一連の研究をまとめ、「治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策の妥当性」について、第13回日本産業看護学会学術集会（東京）で口頭発表し、さらに日本産業看護学会誌に投稿し、採択された（第12巻第1号）。

#### 4. 今後の研究活動

今後の研究では、「治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策」のみでなく、両者の看護ケアの質を高めるために「日常業務全般にわたっての両者の連携のあり方」を探求していきたいと考えている。



## A市内の健康経営取得に影響する要因分析

主任研究者：後藤由紀

分担研究者：河野啓子 澤木美貴 市丸麻衣子 一尾麻美 大森美保  
佐藤優子 大谷喜美江

## 自主研究報告：A市内の健康経営取得に影響する要因分析

### 1. 研究体制

主任研究者を後藤由紀、分担研究者を河野啓子、澤木美貴、市丸麻衣子、一尾麻美、大森美保、佐藤優子、大谷喜美江が務めた。

### 2. これまでの研究経過

健康経営取得法人数は、全国規模でも増加し、これらよりA市の健康経営取得ニーズは今後も高まっていくことが期待される。これまで我々が実施した調査において、健康経営を取得した中小企業は、健康度や健康経営によって会社の生産性や従業員の健康度の上昇を期待し健康経営を展開していた。その一方で、産業保健専門職の活用をはじめとした資源の利活用は十分できていない実態が明らかになった。

### 3. 2024年度の研究

このことから健康経営の取得に影響する要因には、経営層の意識、産業保健活動の有無、資源の利用など様々な要因が複雑に絡んでいることが予想され、昨年度WEB調査を試みた。しかしながら、A商工会議所のシステムと体制変更により十分な回答数を得ることが難しかった。

### 4. 今後の研究活動

今後の研究でもA商工会議所と協議し、広報活動を実施することでアンケート回答依頼し、本研究の目的であるA市内の企業の健康経営取得へ影響する要因分析を達成するための活動を継続して実施する。

## 中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との 連携実践経験に関する質的研究の発展

主任研究者：大谷喜美江

分担研究者：後藤由紀 榎本喜彦 河野啓子

自主研究報告：中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との連携実践経験に関する質的研究の発展

## 1. 研究体制

主任研究者を大谷喜美江、分担研究者を後藤由紀、榎本喜彦、河野啓子が務めた。

## 2. これまでの研究経過

地域保健と産業保健の連携は、地域保健主導で、国の方針に基づくトップダウン型で展開されてきた経緯がある。そのため我々は、2022年度に産業保健側から見た地域職域連携に関する活動実態を文献から系統的に整理し、2023年度に四日市看護医療大学紀要第17巻第1号に「産業保健の側から見た『産業保健と地域保健の連携』に関する文献検討」として公表した。この結果、地域と職域の連携推進に向けた追加研究の必要性が示唆されたため、2023年度にインタビュー調査「中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との連携実践経験に関する質的研究」を開始した。2023年度は4回の研究班会議及びメール会議を実施し、協力者へのインタビュー及び分析を実施した。

2024年度は、2023年度に開始したこの質的研究の予定協力者数の確保およびテキスト化が未完了であったため、これらの完了を目標とした。また、インタビュー調査の中間報告をまとめ、2024年度内に産業看護関連学会で発表することを目標とした。

## 3. 2024年度の研究

2024年度内に5回の研究班会議及びメール会議を実施し、予定協力者数のインタビューおよびテキスト化を完了した。

また、演題登録までにテキスト化を完了できた5名分の結果を分析し、中間報告として第13回日本産業看護学会学術集会（東京）で発表し、優秀演題賞を受賞した。中間報告の結果からは、連携の背景・動機として、産業看護職に「地域保健との接点がある」ことや「全ての人に保健サービスを届ける必要性の認識」などが明らかとなった。また、産業看護職が「地域保健活動に協働・参画して住民へ働きかける」ことや「産業看護職側から発信する地域住民への直接的な健康支援」を行っていたことも明らかとなった。

## 4. 今後の研究活動

協力者総数での分析が未完了であるため、2025年度も引き続き研究を継続し、本研究の発展に努める。また最終的な研究結果をまとめて考察を深め論文を執筆し、産業看護関連

の学会誌で広く公表することを計画する。

## 障害をかかえた労働者への産業看護職による 健康支援に関する文献検討

主任研究者：加藤睦美

分担研究者：武澤千尋 河野啓子 後藤由紀 佐藤優子 市丸麻衣子

自主研究報告：障害をかかえた労働者への産業看護職による健康支援に関する文献検討

### 1. 研究体制

主任研究者を加藤睦美、分担研究者を武澤千尋、河野啓子、後藤由紀、佐藤優子、市丸麻衣子が務めた。

### 2. これまでの研究経過

日本における障害者の雇用は毎年増加し、企業も積極的に採用を進めている。従来、障害者枠の採用では事務サポートや軽作業、清掃などが中心であったが、最近では組織に不可欠な専門的な職務への採用が増えている。この変化の背景には、高等学校や大学で合理的配慮が進み、障害者が学力やスキルを身につける機会が広がったことがある。しかし、日本における合理的配慮の歴史はまだ約10年と浅く、障害者がいきいきと働きながら治療を続けるための産業看護職の支援体制は、明確に確立されていないのが現状である。この課題に対応するため、2023年度に国内の文献をレビューし、「障害を持つ労働者への産業看護職による健康支援」について考察した。しかし、関連する文献は9件しかなく、今後さらなる調査が必要であると考えられた。

### 3. 2024年度の研究

1990年に制定された「障害を持つアメリカ人法（ADA）」は、労働者の健康障害に対する企業の取り組みや産業保健スタッフの活動に大きな影響を与えた。この影響を踏まえ、国外における「障害を持つ労働者への産業看護職による支援」について文献レビューを実施した。

PubMedを活用し、1984年～2024年の期間において文献検索を行った結果、290件の文献がヒットした。さらに検索を繰り返し、165件に絞り込み、タイトルスクリーニング、アブストラクトスクリーニング、本文精読を経て、最終的に33件の文献を選定した。しかし、選定された33件の文献のうち、産業看護職が実際に実施した健康支援に関する具体的な記述があるものはごく少数にとどまった。また、諸外国における障害者の定義には国ごとの違いがあり、多様な解釈が存在することが明らかになった。研究者間の協議を経て、33件の文献を総合的に分析した結果、「健康障害を持つ労働者への健康支援として、産業看護職の活動に活用できる内容」が示されていることに着目した。その内容を抽出し、コアとなる7つの概念を導き出した。これらの概念は、日本国内における産業看護職の活動に応用可能であると考えられた。

この研究を通じて、障害を持つ労働者への産業看護職による支援の具体化が進み、日本で実践可能な健康支援の枠組みを構築するための新たな指針が得られる可能性が示唆された。また、障害を持つ労働者への産業看護職の支援の在り方について、さらに深く検討し、効果的な支援を実現するための具体的な方策を構築していくことが重要であると考えられた。

#### 4. 今後の研究活動

2025年度は、2024年度の文献レビューを基に、見出されたコアとなる7つの概念を精選し、研究成果として体系的にまとめる。これらの成果は学会等で報告し、専門家との議論を通じてさらなる知見を得る。また、最終的に研究結果を論文化し、広く公表することで、障害を持つ労働者への産業看護職による支援の発展に寄与することを目指す。



## 高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討

主任研究者：藤井夕香

分担研究者：佐藤優子

## 自主研究報告：高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討

### 1. 研究体制

主任研究者を藤井夕香が、研究分担者を佐藤優子が務めた。

### 2. これまでの研究経過

日本の平均寿命は延伸し続けており、高齢者人口（65歳以上の人口）の割合は29.1%となっている。高齢者が増加する中、就労を継続している高齢者も多く、その理由は「収入がほしいから」の割合が高いが、「働くのは体によいから、老化を防ぐから」が多いのが日本の特徴である。65歳以上まで働きたいと考えている人の割合は6割を占めている。

一方で、少子高齢化により日本の労働人口は減少傾向にあり、労働力不足から、国として、高齢者の雇用確保への取り組みがなされ、働く意欲と能力のある高年齢者が年齢を問わず働くことができる社会へと歩みを進めている。

高齢者が就労することで高齢者の健康に与えるプラス面とマイナス面を文献検討により明らかとしたいと考えた。今後就労する高齢者が益々増加することが予測されるが、これらを明らかにすることで、高齢者の就労への支援について示唆を得ることできると思われる。

### 3. 2024年度の研究

医学中央雑誌(Web)を用いて2013年から2024年8月に発表された文献を対象とした。検索式は「高齢者」and「就労」and「健康」として検索を行った。文献の選定条件は、就労している高齢者を対象としている、就労が高齢者の健康に影響していることを示している、調査場所が日本であることとし、10件の文献を分析対象とした。高齢者の就労が健康に与える影響として、プラス面では主観的健康感の向上や、生活機能の低下を予防することが示された。また、高齢者が就労する意義も一部明らかとなった。マイナス面では就労が経済的な目的であった場合は主観的健康感が低下し心理的苦痛が増すことが示された。就労を希望する高齢者がその目的に応じて就労できるよう、就労目的を確認し、希望に応じた就労内容や就労日数など働き方を提供する必要がある。同時に、就労の場において、高齢者の心身の機能や健康状況に応じた、健康と安全へのサポート体制の充実が望まれる。

(四日市看護医療大学紀要第18巻第1号に掲載)

#### 4. 今後の研究活動

高齢者が就労する意義や価値は多様であり、それらを明らかにしていくことが必要であると思われる。

### Ⅲ. 参考資料

<学術学会誌・紀要投稿>

・藤井夕香、佐藤優子:高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討、四日市看護医療大学紀要、第18巻1号、2025.03、p31-37.

<学術学会発表>

・大谷喜美江、榎本喜彦、後藤由紀、河野啓子:中小企業を支援する産業看護職の地域保健職との連携実践経験に関する質的研究、第21回日本ヘルスプロモーション学会・第13回日本産業看護学会、合同学術大会、2024.11.30.

・大森美保、河野啓子、杉崎一美、後藤由紀、一尾麻美、畑中純子、加藤睦美、武澤千尋、澤木美貴:治療と仕事の両立支援における産業看護職と臨床看護職との連携方策の妥当性の検討、第21回日本ヘルスプロモーション学会・第13回日本産業看護学会、合同学術大会、2024.12.1.

・佐藤優子、藤井夕香:高齢期における就労が健康に及ぼす影響に関する文献検討、第21回日本ヘルスプロモーション学会・第13回日本産業看護学会、合同学術大会、2024.12.1.

## 令和 6 年度事業活動報告書

令和 7 年 9 月発行

|               |       |
|---------------|-------|
| 産業看護研究センター長   | 後藤 由紀 |
| 運営委員長         | 杉崎 一美 |
| 令和 6 年度 センター長 | 後藤 由紀 |
| 運営委員長         | 杉崎 一美 |

運営委員（50 音順）

一尾 麻美  
市丸麻衣子  
榎本 喜彦  
大谷喜美江  
大森 美保  
加藤 睦美  
河野 啓子  
佐藤 優子  
澤木 美貴  
武澤 千尋  
畑中 純子  
藤井 夕香

---

編集・発行 四日市看護医療大学

地域研究機構 産業看護研究センター

〒512-8045 三重県四日市市萱生町 1200 番地

Tel:059-340-0708 Fax 059-361-1401

yrro@y-nm.ac.jp

<https://www.y-nm.ac.jp/yrro>